

8-3-3 土木・建築連携まちづくり専門委員会

1. 主な活動記録

(1) 活動目標

今年度は、「美しい国づくり専門委員会」から「土木・建築連携まちづくり専門委員会」に専門委員会の名称を変更した初年度の活動となった。専門委員会名称の変更は、「美しい国づくり」の実現に向けた土木と建築等を含めた専門家としての取り組みの活動については一定の効果を得たと判断し、以下の2つの方針で新たな活動を開始する事とした。

a) 土木分野と建築分野の協働について、従来の景観やデザインの領域だけでなく、企画・調査・設計・監理全般を対象に多様な社会環境に応じた協働の在り方を探求する。

b) 過年度より活動している「美しい国づくり」の実現に対して、我々建設コンサルタントが取り組んできた活動・成果について記録に残し、情報発信を行う。

(2) 委員会の開催等

- ・委員会開催(勉強会):メールによる審議(4月～2月)
- ・JCCA/JIA 合同WGでの議論(勉強会):10回(4月～2月)
- ・JCCA×JIA 協働シンポジウム開催:1回(令和4年2月)

(3) 主な内容

- JCCA×JIA 協働シンポジウムのテーマ、協働のあり方について議論し、登壇者などの調整と確定を行う。
- JCCA/JIA 合同WSでの議論の深度化
- デザイン紀行の執筆準備

2. 実績報告

(1) 委員会:令和3年4月～令和4年2月メールによる審議が主体、過年度の活動等を踏まえ、今年度の活動方針・意見交換や協働シンポジウムの企画準備、勉強会の企画などを行った。

(2) JCCA/JIA 合同WS:JIA 都市まち委員会のWGに参加、(1)のシンポジウムの企画検討、協働のあり方について議論を深めた。

(3) デザイン紀行の執筆:(1)の委員会に合わせ、土木分野のデザイン事例を視察調査した結果を「デザイン紀行」として取りまとめ準備。

(4) 第14回シンポジウム:令和4年2月26日(土)にメインテーマを「土木と建築の協働、その可能性を探る」とし、「駅・駅広を中心とした地方都市のまちづくり事例から「都市・まち」を考える」をサブテーマに実施した。シンポジウムは、ライブ配信かつ、CPD 認定プログラムとして開催、参加者は175名。CPD 受講証受取り時に実施したアンケートでは、106人中90名の方が、満足したとの回答が得られた。

シンポジウムの基調講演は、「多様な主体とまちづくりを考える」と題して乾 久美子氏(建築家)が講演された。パネルディスカッションは、モデレーターが福島 加津也氏(建築家、JIA 委員)、パネラーは、乾 久美子氏に加えて、小野寺 康氏(都市設計家)、新屋 千樹氏(国土交通省)に登壇頂いた。パネルディスカッションでは、都市の結節点である駅・駅広などを中心とした地方都市のまちづくりを主に題材に挙げ、様々な関係者と垣根を超えた協働によって、どうやって都市・まちを元気にしたのか、そして同じく都市・まちに関わる私たちに、今後どのような可能性があるのか等について興味深い議論が交わされた。

3. その他報告事項

過年度シンポジウムの活動成果の公開方法について検討をしている。

4. 次年度の活動について

「土木・建築連携まちづくり専門委員会」の活動は、土木分野と建築分野の協働について、従来の景観やデザインの領域だけでなく、企画・調査・設計・監理全般を対象に多様な社会環境に応じた協働の在り方を探求していく。また、連携の対象は、建築分野だけにとどまらず、造園(ランドスケープ)分野との連携も視野に入れて活動を進めていく。

(土木・建築連携まちづくり専門委員会委員長

水谷 智充)